

日本学術会議 北海道地区会議ニュース

発行 日本学術会議北海道地区会議

No. 50
2020-3

アカデミアと危機管理

第24期北海道地区代表幹事
(北海道大学特任教授)

寶金 清博

この文案を考えているのは、令和2年3月1日です。この拙文が日本学術会議北海道地区会議のNo.50のニュースとして関係者の目に届くのは、あと1か月先かと思われます。その時期、関係者がどのような状況でこの文章を読むことになるのか、その見通しさえもつかない想定外の危機に私達は今、遭遇しています。言うまでもなく、新型コロナウイルス感染症がパンデミックになるかならないかの分水嶺に差し掛かっています。できれば、この文章の危機感が、まるでの外れのものとして、約1か月後に感じられることを心から期待しています。

日本学術会議も、現在、新型コロナウイルス感染症に関して様々に情報を発信していますが、内容は政府発表の対策の周知に留まっています。過去には、新型インフルエンザが流行した2009年に緊急シンポジウムを開催して、主に第二部・臨床医学の観点から、新型インフルエンザの対策、ワクチンと抗インフルエンザ薬の開発を議論しています¹⁾。今思えば、緊急とは言え、アカデミアの田園的な長閑ささえ感じられます。息が詰まるような切迫感や恐怖にも近い危機感は感じられません。しかし、現在の状況は、当時とは比較にならないものがあります。事実、こうしたシンポジウムの開催そのものが、パンデミック回避の観点から、自粛になっています。

現在、国内外を問わず社会からは、これまでの政府の対応の遅れを非難する声が高まっています。しかし、その批判はアカデミアにも向けられているように思います。こうした感染性が高く、無視できな

いほどの死亡率・重症化率のある疾患が急速に広く社会に蔓延する事態に対抗するためには、行政や医療だけではなく、広く、社会全体が強い意思を持って立ち向かう必要があります。アカデミアにおいても、生命科学だけではなく、社会インフラである交通、物流、エネルギーを支える学術、さらに、法律、教育、経済などの社会科学も含めて、アカデミア全体が総力を挙げて立ち向かうべきものです。

こうした未曾有のリスクに対応するためには、多くの叢智を集結させる必要があります。本来、多大な時間を要するものです。日本学術会議もその努力を全く怠っていたわけではありません。例えば、2010年には、「リスクに対応できる社会を目指して」と言う提言を発信しています²⁾。これは、今、改めて見ると総論としては、最高の叢智の結晶です。しかし、個々の内容は、社会実装性や具体性に乏しく、特に、今回のようなパンデミックに対する提案は、わずかに数行となっています。この提言が生かされていなかったことは、今回のことでも明らかです。叢智の結晶が発信されても、それが政策や社会実装に結びつかない現実を私達はもう一度見つめなおす必要があります。

今回のパンデミックは感染症ですが、現代社会は、グローバル化の中で、様々な未知の狂暴なリスクに曝されていることは間違いがありません。その脅威の拡散のスピードと深度、その破壊力は、現在のアカデミアの体制では対応できないものなのかもしれません。あるいは、じっくりとデータを集積し、エビデンスを固めてゆく、時間制限のない将棋の名人戦のようなものであれば、従来のアカデミアの得意な領域かもしれません。ただ、事態が時間的、空間的に急速かつ複雑に変化していくような状況では、データ集積・エビデンス蓄積型の、いわばスローサイエンスでは対抗できないのではないかもしれません。

将棋のメタファーで言えば、超早指しの秒単位の

ような戦いは、従来の学術の手法では明らかな限界が見えています。しかし、「危機管理学」という名前の学問領域にこの問題を閉じ込めても解決はできないと思います。広く学術全体の在り方や手法として、突発的で深刻で広範な問題に対応できるように新たなガバナンスの在り方や学術方法論が考えられなければならないと思います。今回の危機は、将来起こりうる更なる狂暴な危機に備える意味でも大きな啓示と考えるべきではないでしょうか。

学術講演会開催報告

北海道地区会議では、市民公開の講演会を毎年開催しています。令和元年度は、11月9日（土）に開催し、学生、大学関係者、行政関係者、一般市民等多数の方にご参加いただき、盛況のうちに終了しました。以下に当日の講演内容を報告します。

「スポーツ・科学・社会」

日時：令和元年11月9日（土） 13：30～17：00
場所：北海道大学学術交流会館・小講堂

報告：第24期北海道地区代表幹事
(北海道大学特任教授)

寶金 清博

本年度の北海道地区会議・学術講演会は、令和元年11月9日、北海道大学学術交流会館で開催されました。今年のテーマは、地区運営委員の総意で、『スポーツ・科学・社会』としました。

スポーツと学術に関するシンポジウムは、昨年度も含め、日本学術会議では何度か行ってきました。ただ、北海道ではこれまで「スポーツ」に焦点を当てた学術講演会の開催はありませんでした。今回は、本年、2020年の東京オリンピック開催や札幌市の2030年の冬季オリンピック立候補の時期でもあり、スポーツをテーマとしました。改めて、スポーツと学術、そして「まち・ひと・しごと」の観点からスポーツを通じた学術の地域貢献などを議論する場を提供することとしました。

また、スポーツの光の部分だけではなく、オリンピ

(参考情報)

- 1) 日本学術会議公開シンポジウム「新型インフルエンザに関する緊急公開シンポジウム」(平成21年12月9日(水))
<http://www.scj.go.jp/ja/event/pdf/84-s-2-1.pdf>
- 2) 日本学術会議日本の展望委員会安全とリスク分科会「日本の展望－学術からの提言」(平成22年4月5日)
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-tsoukai-10.pdf>

の影響、経済効果とそのリバウンドと言った陰の側面についても、アカデミアから問題提起を行いました。さらに、スポーツが持つ倫理的課題-健康増進と表裏一体の過剰な負荷による身体・精神への障害の問題についても情報提供をしました。

日本学術会議 北海道地区会議 学術講演会

『スポーツ・科学・社会』

令和元年 11月9日(土) 13:30～17:00

北海道大学 学術交流会館 小講堂 (札幌市北区北8条西5丁目)

プログラム

司会	寶金 清博(日本学術会議第二部委員、北海道地区会議代表幹事、北海道大学特任教授)
13:30～13:40 開会挨拶	渡辺美代子(日本学術会議副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構理事長)
13:40～14:00 挨拶	寶金 清博(日本学術会議第二部委員、北海道地区会議代表幹事、北海道大学特任教授)
14:00～14:40 講演	「スポーツ障害を科学するー野球場の科学ー」 岩崎 俊樹(北海道大学大学院医学研究科解剖学科学専攻教授)
14:40～15:20 講演	「スポーツの経済学」 大野 純夏(日本学術会議第一部長、北海道大学大学院経済学専攻教授)
15:20～15:35 休憩	
15:35～16:15 講演	「プロ野球における人材育成」 白井 一孝(元日本ハムファイターズ1期内野守備指導コーチ兼特任教授)
16:15～16:55 講演	「変革期を迎えた大学スポーツ」 池田 敦樹(自治大学教授、一般社団法人大学スポーツ協会(JUNVAS)専務理事)
16:55～17:00 閉会挨拶	加藤 眞子(日本学術会議第三部長、北海道大学大学院理学部教授)

■ 会場
日本学術会議北海道地区会議
北海道大学

■ 申込中心 札幌市中央区
日本学術会議北海道地区会議事務局
北海道大学 学術交流会館 学術情報センター
Tel: 011-706-2166 Fax: 011-706-4573
e-mail: hokushin@general.hokudai.ac.jp
〒060-0810 札幌市中央区南一条西5丁目5-1(学術交流会館)

■ 入場無料
どなたでも
参加できます

最初に、日本学術会議の副会長である渡辺美代子先生からご挨拶に引き続き、地区代表幹事である寶金清博氏から、今回の学術講演会のテーマの説明が行われました。



開会挨拶をされる渡辺日本学術会議副会長



テーマ等の説明をする寶金北海道地区代表幹事

続いて、スポーツ障害の専門家である、北海道大学医学部整形外科の岩崎倫政先生から、「スポーツ障害を科学する——野球肘の科学——」というテーマで、野球肘を通して青少年に見られるスポーツ肘の問題が分かりやすく示されました。また、こうした野球肘が、より若年の小学生などにも見られることなど、スポーツ倫理上の問題も提示されました。



公演中の岩崎北海道大学教授

二番目の講演として、学術会議第一部会員の北海道大学経済学教授の大野由夏先生から、「スポーツ

の経済学」の講演がありました。これは、オリンピックと言うメガイベントを経済学の側面から見直したもので、巨大な経済活動としてのオリンピックの一面とその不透明さ（収支の不明さ）を明らかにしたものでした。オリンピックが巨大な経済イベントであることは私達も良く知っていましたが、その巨大さ故、一体、誰がどれほど利益をあげ、あるいは、私達がどれほどの負担を負うものかが、可視化できない巨大さであることも知ることができました。



公演中の大野北海道大学教授

休憩をはさんで、プロスポーツの代表として、元日本ハムファイターズ1軍内野守備走塁コーチ兼作戦担当コーチであった白井一幸氏から「プロ野球における人材育成」と言うタイトルで講演がありました。講演では会場の聴衆を巻き込みながら、従来の介入性や懲罰性の強いコーチング技術の誤りを指摘し、白井氏の優れたコーチング技術を分かりやすく解説されました。また、白井氏の巧みな講演技術は会場を魅了しました。



コーチング技術を説明する白井元コーチ



熱心に講演を聴く出席者

最後に、大学スポーツをリードする代表として一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）の専務理事の池田敦司氏から、「変革期を迎えた大学スポーツ」と言う講演がありました。大学スポーツは、これまで組織化が乏しいと言う課題がありましたが、UNIVASの組織化により、高大連携、さらに、オリンピックなどの世界的レベルのスポーツに繋がる大学スポーツの組織化の方向性を提示戴きました。



公演中の池田UNIVAS専務理事

いずれの講演もスポーツと社会とアカデミアの関係を多様な視点から考察したもので、大変に興味深い講演でした。最後に、日本学術会議北海道地区会議の加藤昌子先生から、閉会の挨拶がありました。やはり、スポーツと学術の関係が今後もより緊密になるという感想が述べられました。11月に入って、肌寒い一日にも関わらず、多くの皆様の参加があり、最後まで熱心に聴いていただき、この場を借りて感謝申し上げます。



閉会挨拶をされる加藤北海道大学教授

令和元年度実施の地区事業（実施分）

○学術講演会

令和元年11月9日（土）

北海道大学学術交流会館（札幌市）

「スポーツ・科学・社会」

参加者69名

概要

司会 寶金 清博

（日本学術会議第二部会員・北海道地区会

議代表幹事・北海道大学特任教授）

◇挨拶 渡辺 美代子

（日本学術会議副会長・国立研究開発法人
科学技術振興機構副理事）

◇イントロダクション 寶金 清博

（日本学術会議第二部会員・北海道地区会
議代表幹事・北海道大学特任教授）

◇講演

「スポーツ障害を科学するー野球肘の科学ー」

医学研究院整形外科教室教授 岩崎 倫政

「スポーツの経済学」

日本学術会議第一部会員・経済学研究院教授

大野 由夏

「プロ野球における人材育成」

元日本ハムファイターズ1軍内野守備走塁

コーチ兼作戦担当 白井 一幸

「変革期を迎えた大学スポーツ」

仙台大学教授・一般社団法人大学スポーツ協会

(UNIVAS) 専務理事 池田 敦司

◇挨拶 加藤 昌子

(日本学術会議第三部会員・理学研究院教授)

○北海道地区会議サイエンスカフェ

①令和2年2月21日(金)

三省堂書店札幌店(札幌市)

「大地の呼吸に耳をすます～熱帯泥炭林のCO₂循環を測る～」

講師：北海道大学大学院農学研究院教授

平野 高司

○北海道地区会議運営協議会

①令和元年6月27日(木) 北海道大学(札幌市)

議題1 令和元年度地区会議学術講演会について

報告1 サイエンスカフェの実施報告

②令和元年8月20日(火) 北海道大学(札幌市)

議題1 令和元年度地区会議学術講演会について

③令和2年3月2日(月) 北海道大学(札幌市)

議題1 令和2年度地区会議事業計画について

報告1 令和元年度地区会議事業実施報告について

○北海道地区会議科学者懇談会

令和元年11月9日(土)

北海道大学学術交流会館(札幌市)

※渡辺副会長を囲んで

第24期地区会議構成員

第24期北海道地区会議構成員は会員および連携会員で構成されている。

[会員]

石塚真由美 第二部会(北海道大学大学院獣医学研究院 教授)

大野 由夏 第一部会(北海道大学大学院経済学研究院 教授)

加藤 昌子 第三部会(北海道大学大学院理学研究院 教授)

俣野 茂 第三部会((独)国立高等専門学校機構理事, 函館工業高等専門学校長, 北海道大学名誉教授)

西村 正治 第二部会(北海道呼吸器疾患研究所 理事長, 豊水総合メディカルクリニック 医師)

寶金 清博 第二部会(北海道大学名誉教授, 北海道大学大学院保健科学研究院 特任教授)

吉岡 充弘

第二部会(北海道大学大学院医学研究院 院長)

[連携会員]

石井 哲也 北海道大学安全衛生本部 教授

石田 晋 北海道大学大学院医学研究院 教授

上田 一郎 北海道大学名誉教授

白杵 勲 札幌学院大学人文学部 教授

宇山 智彦 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授

大貫 惣明 北海道大学名誉教授

大場みち子 公立ほこだて未来大学 教授

大場 雄介 北海道大学大学院医学研究院 教授

笠井 久会 北海道大学大学院水産科学研究院 准教授

蟹江 章 北海道大学大学院経済学研究院 教授

河原純一郎 北海道大学文学研究院 准教授

川村 周三 北海道大学大学院農学研究院 研究

		員	客員教授
小柴 正則		北海道大学名誉教授	本間 研一 北海道大学名誉教授
櫻井 晃洋		札幌医科大学医学部 教授	真木 太一 北海道大学農学研究院 研究員, 九州大学名誉教授
笹木 敬司		北海道大学電子科学研究所 教授	
佐藤 典宏		北海道大学病院臨床研究開発センター長	三澤 弘明 北海道大学電子科学研究所 教授
澤村 正也		北海道大学理学研究院 教授, 北海道大学安全衛生本部副本部長	南 雅文 北海道大学大学院薬学研究院 教授
鈴木 賢		明治大学法学部 教授	美馬のゆり 公立ほこだて未来大学システム情報科学部 教授
都木 靖彰		北海道大学大学院水産科学研究所 教授	村越 敬 北海道大学大学院理学研究院 教授
田口 正樹		北海道大学大学院法学研究科 教授	森本 淳子 北海道大学大学院農学研究院 准教授
武冨 紹信		北海道大学大学院医学研究院 教授	安田 和則 医療法人知仁会八木整形外科病院名誉院長
玉腰 暁子		北海道大学大学院医学研究院 教授	山口 佳三 北海道大学名誉教授
田村 豊		酪農学園大学獣医学群 教授	山下 啓子 北海道大学病院乳腺外科長
辻 康夫		北海道大学公共政策学連携研究部 教授	山下 竜一 北海道大学大学院法学研究科 教授
寺尾 宏明		北海道大学名誉教授	渡邊 雅彦 北海道大学脳科学研究教育センター長, 北海道大学大学院医学研究院 教授
長里千香子		北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 准教授	
中島 秀之		公立大学法人札幌市立大学理事長・学長	(氏名は五十音順)
名和 豊春		北海道大学総長	
西野 吉則		北海道大学電子科学研究所 教授	
庭山 聡美		室蘭工業大学しくみ解明系領域 化学生物工学ユニット 教授	
野口 伸		北海道大学大学院農学研究院 副研究院長	
橋本 雄一		北海道大学大学院文学研究院 教授	
長谷山美紀		北海道大学大学院情報科学研究所 副研究院長	
羽山 広文		北海道大学大学院工学研究院 教授	
樋田 京子		北海道大学歯学研究院 教授	
水見山幸夫		北海道教育大学名誉教授	
平野 高司		北海道大学大学院農学研究院 教授	
広田 知良		国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センターグループ長, 北海道大学客員教授	
福井 学		北海道大学低温科学研究所長	
藤田 修		北海道大学大学院工学研究院 教授	
藤永 弘		札幌学院大学名誉教授	
船水 尚行		室蘭工業大学 理事・副学長	
古屋 正人		北海道大学大学院理学研究院 教授	
本間 さと		北海道大学脳科学研究教育センター	

日本学術会議北海道地区会議事務局

北海道大学研究推進部研究振興企画課

〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

電話 (011) 706-2155 FAX (011) 706-4873